

考察を求む

あたかもそれらが、それぞれ一個の生物であるかのように

我々が生み出し、自らの生命を付託した外部存在
手として、足として、内臓として、
さらには目として、耳として、鼻として、
何よりも脳として

それらが進化してゆく
それとは逆に
すべての手綱を握っているはずの我々は
既にそれを制御する力を失いつつある

パスカルよ、
我、とはそもそも何か？

哲学は、
これら外部生命体をも取り込み
その解答を与えうるものだろうか・・・

今や我ら自身の死は無意味となり
無限に巨大なシェルターに防備された人類は
永遠の生を手にしたかのような

我々を防御する外部生命体が
反旗を翻して自らの利益のみに走りはじめ
我々を無視することのない限り

マルクスよ、冥界から俯瞰してみるがいい
お前の想像だにできなかった
新たな「自己疎外」が世界を覆いつつあるのを

(2004.10.24)